



代表理事組合長

工藤 友良

組合員の皆様には日頃農協事業

全般に亘り、ご理解とご協力を頂いております。改めて感謝申し上げます。七月一日で、津軽みらい農協合併十周年を迎えることができました。これもひとえに組合員・地域・役職員の皆様のお力添えのおかげです。厚くお礼申し上げます。

組合員、地域の方々の農協に対する期待に応えるべく努力している所ですが、農業・農協を取り巻く状況は依然厳しく、少子高齢化社会、担い手・後継者・労働力不足等すぐには解決できない諸問題が山積しております。

人口減少による消費の縮小、TPP、日欧EPA、今後始まるアメリカとの二国間交渉等関税の引き下げ撤廃による輸入農畜産物の増加と価格競争、安全安心だけでは消費者に満足してもらえないのか非常に

心配される所です。

将来に向けて農業者が安心して暮らせる社会を目指して、農業者の所得増大、生産の拡大、地域に対する貢献力の発揮を合言葉に役職員一同、危機意識の共有と自己改革を進め、経営基盤を強固にし、邁進して参りたいと考えております。

経費の節減に努め、営農指導の強化、販売力の向上、生産資材の引き下げ等に力を注いで津軽みらい農協が総合事業を通して組合員地域の皆様と共にさらに発展出来まます様頑張りまますので、今後共尚一層のご協力を賜わります様お願い申し上げます。

近年全国各地で気象災害により甚大な被害が多発しておりますが、今年も実り多い出来秋を迎えられる様祈りつつ、十周年にあたってのご挨拶とさせていただきます。



代表理事専務

澤 一雄

平成二十九年度の事業も終え、組合員の皆様のご理解ご協力を頂き、新たな事業年度十周年を迎えることができました、深く感謝申し上げます。

さて、ご承知のとおり、農協は農協法改正に伴いまして自己改革に取り組んでいる所しております。目標は農産物の収量増、農業所得の増、地域社会の貢献です。支店協議会をはじめ、さまざまな会議

でご意見、ご提案をいただいております。また、新年度になり、常勤役員が担い手農家を訪問させて頂き、対話をさせて頂いております。現状を見ますと組合員の高齢化、担い手や労働力不足等の問題があり、ご意見も関連したものが

多いわけです。農協では所得増大

に向けて新規作物の取組みの助成、大型資材の集約化なり価格の見直し、販売面では米の複数年契約、りんご・野菜では新たな販路に取り組みをしているところです。また、地域社会の活動にも積極的に取り組んでおり、これからもご意見ご提案を頂きながら取り組んでいきます。

事業につきまして組合員皆様のご協力を頂き、感謝いたします。これからも組合員皆様にご有って良かった、無ければならない組織づくりを進めさせていただきますので、農協の協同活動には主体的に参加いただきます様をお願い申し上げます。





代表理事常務（信用担当専任）

奈 良 寧

合併当初、統廃合店舗を対象にということ、県内で初となる移動店舗車（ちよきんぎょカー）を導入しました。現在二代目の移動店舗車（みらい号）となり活動中で、交通弱者の足となって活躍していますが、利用者が年々減っているのが現状で寂しい限りです。

また、各支店の窓口を対象に、JAバンクCS改善プログラムを導入しました。利用者満足度を高めるために、職員が「自ら考え、自ら行動する」というもの。併せて店舗の美粧化についても

取り組んでいるところでありま す。結果、「あいさつが良くなった」、「店舗が明るくきれいになった」等の評価を得られています。今後も継続していききたい。

共済事業については、六年連続目標を達成しております。これからも伸ばしていきたい。貯金においては、今期ようやく九百億円を超え九百十三億円を達成いたしました。目標とする一千億円へ早期に達成したい。

合併して十年、今後皆様にとって「なくてはならないJA」を目指していきたい。



代表理事常務（販売担当）

久米田 喜代寿

十周年を迎え、改めて年月の早さを感じます。当JA管内は、津軽平野地域の南北に広がり、肥沃な土壌と冷涼な気象条件に恵まれ、水稲、果樹、野菜、畜産とバランスのとれた地帯であり、高品質な農畜産物が生産されています。

特にりんご王国青森県は、生産量日本一を保持し、平成二十六年から販売額が三年連続で一千億円を突破したところであります。

当JAは、系統内ではりんご取り扱い高で全国一位になっており、農業生産拡大に向けて、更に強化を図っているところであります。

販売面については、全国取引市場をはじめ、直接販売、輸出の促進と更なる販路拡大を進めているところ、津軽みらいブランド力を高め、企画商品の開発等、消費者ニーズに合った売りやすい商品づくりを進めるため、各青果センターの一本化の体制づくりを進めているところであります。

今、産地では高齢化とともに労働力不足に直面しています。安定した生産量を確保するため、各関係機関と尚一層の連携を図り、産地づくりを進める必要があります。





代表理事常務（営農購買担当）

大川 重紀

今JAグループでは、自己改革に取り組んでおり、改革の一つに農業所得増大があります。生産資材、肥料、農薬の価格の見直しであります。生産資材等の購買事業は、銘柄集約に取り組み、事前予約積み上げによる受注、共同購入の集中購買により価格を引き下げて組合員のメリットを出し、農薬については、品目集約、担い手直送大型規格の取り扱い拡大を目指していきたいと思っております。

成、近年作付け者が増えている桃の苗木の助成や「津軽の桃」ブランドを広げていきたいと思っております。また、ビニールハウスの助成も増加傾向にあり、その大半はミニトマトで、面積は十四畝、販売額は五億七千万円超えと過去最高となっております。農業助成事業を通して、複合経営の推進や新規就農者の増加、農作物のブランド力強化につなげていきたいと思っております。農協は自主自立の民間組織です。組合員に必要なとされる組織であり続けるために、役職員一人一人が自己改革を実践し、組合員と向き合い、農協が地域にとって必要だと思えるよう進めていきたいと思っております。



常勤監事

加藤 延功

十年という月日の経過とともに、農協をとりまく社会経済環境は駆け足で変化しつづけます。農業は国民食料の安定生産や自然景観の保全、洪水防止機能など多面的機能を有し大きな役割を果たしてきました。しかしながら、工業立国の優先のもとで食料自給率の向上は期待することが儚い夢のようでした。その結果、農業・農村は様々な点でじり貧を余儀なくされたと言えます。しかし、時代の変遷がいかにあったとしても、昨年、協同組合の実践活動について、ユネスコは無形文化遺産に登録し、その普遍的価値を高く評価したのであります。

JAの拠って立つ基盤は農村であり、農業振興を大義とし、組織に結集しその使命を果たし、組合員の生活を守ってきたのです。農業・農村が様々な後退局面にあるとしても、その良さを再確認し振興を期したいと想う。津軽の田園風景を歌った故美空ひばりは「津軽のふるさと」で「リンゴのふるさと」は北国の果て……と歌い、作家五木寛之は自著のなかでこの歌を最高の叙情歌と評しています。雄大な岩木山のふもとに広がる農村の原風景とりんご園と人情との調和を無上のものとして賛美したのです。私はこのふるさとに大きな自信と誇りを持ちたいと想う。不世出といわれる歌手が歌に託し、知識人の折り紙が付与された歌のふるさとを。JA津軽みらいは、合併十周年を機会に組合員と共に更なる飛躍されることを確信しています。